

05

ニセコの壮観な景色とつながる ラグジュアリーな次世代シェルター

Hanaridge11 設計_リカルド・トッサーニ リカルド・トッサーニ・アーキテクチャー
所在地_北海道虻田郡 家族構成_夫婦+子供2人

ハイエンドなウインターリゾートとしての地位を確立した北海道・ニセコ。
世界各国に拠点をもつ高感度な人々が建てる別荘は、
その土地の魅力を存分に味わうライフスタイルの理想を体現しています。

撮影:崎貴泰至 編集・文:栗井直子

積雪量が3m以上にもなる豪雪地帯。建物は厳しい自然環境から身を守るシェルターの意味合いもある。造形美と機能性のバランスも大切。

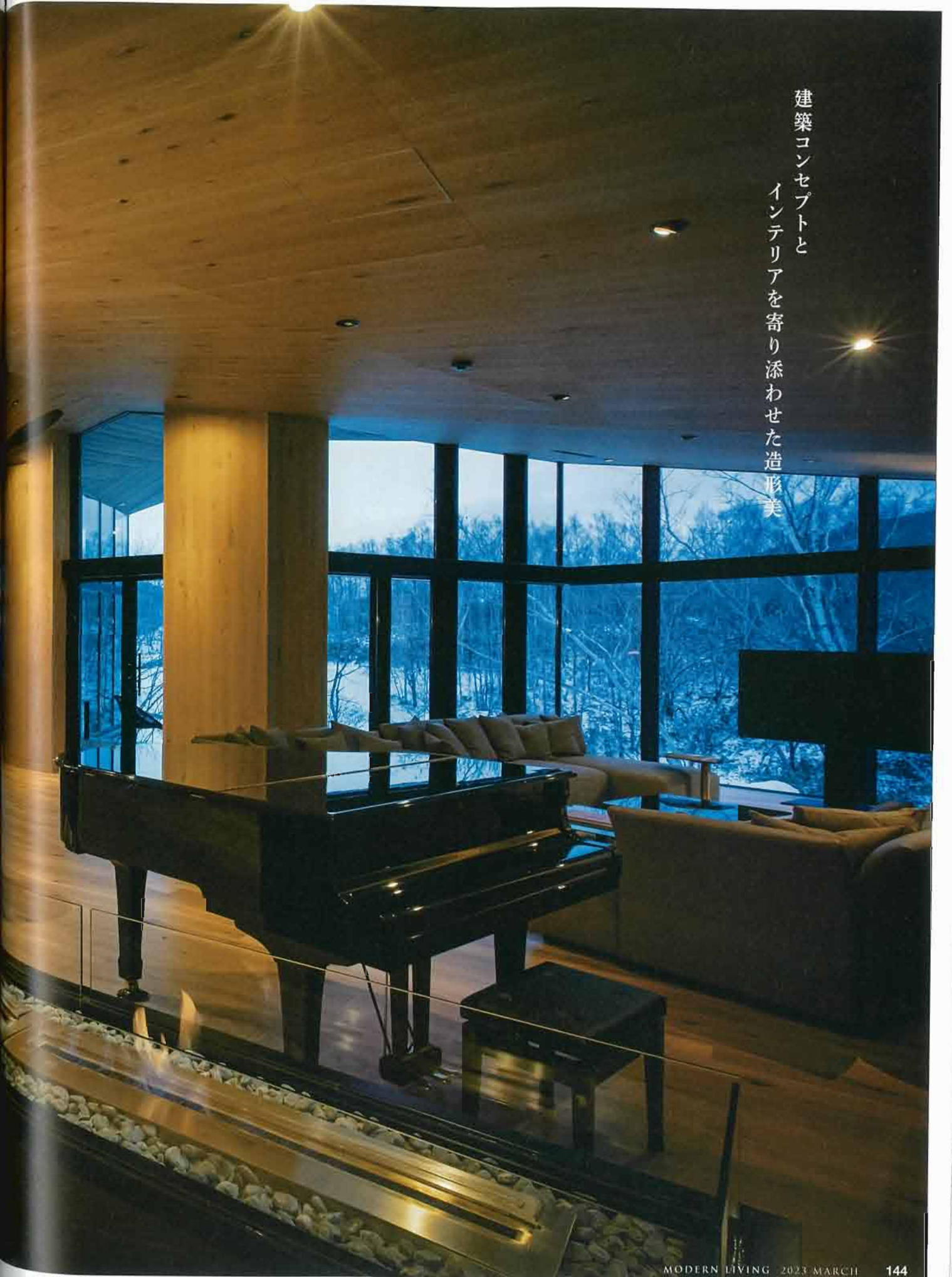
北国のリゾートであることを印象付けるために、内装材には自然のままの節のある木を採用。ナラやタチノキなど北海道産の木材を使用している。

THESE WITH MULTIPLE

建築コンセプトと
インテリアを寄り添わせた造形美



大自然と一体化するLDK。反り返った屋根形状に合わせて天井も曲面に。大空間にニュアンスが生まれ、柔らかな雰囲気仕上がっている。



ゲストを招く
迎賓の場としても

ニセコを世界的なウインターリゾートに仕立て上げた陰の立役者ともいえる建築家のリカルド・トッサイさん。現在も世界中の顧客からコンドミニアムやヴィラの設計依頼が途切れることはない。ニセコの変遷、来訪者のライフスタイルや価値観、ニーズをよく知るからこそできる提案だと思わせられたのが、この「ハナリッジ11」だ。

住み手の本拠地は中国・香港。ニューヨークなど世界各地にいくつもの生活拠点をもち、新たなポートフォリオに加えたのがニセコだった。「もともと家族のための別荘というご希望でしたが、人気の高いリゾート地という特性を考え、ゲストたちが宿泊できるような住まい方を提案しました」とリカルドさん。

迎賓の場と位置付けたことは、スペース使いやゾーニングを思い切りよくダイナミックにすることに功があった。エントランスのある3階部分は、ほぼワンルームの大空間で約170㎡のLDK。2階は4家族が宿泊できる個室スペース。すべてオンサイト仕様でトイレとバスルームがシャワーブースが備わり、親しき仲でもプライベートは保たれる。1階は天然温泉を楽しめるスパ&露天風呂とジムスタジオ。ホテルのような多彩な機能をもたせている。

思い切った設計は建物形状や外観にも表れている。羊蹄山とニセコアンヌプリという二つのシンボルが見えることを強調させるため、双方の山に向かって建物をY字形に配置。

山々が連なる北海道ならではの雄大な自然と運動するように、屋根は寺院のような反りを入れた勾配形状を採用した。豪雪に対応するために軒を広く出したことで白鳥の両翼のような優雅さも醸し出している。

Y字に分かれた絶景側は大きなガラス窓で自然と一体化する一方、建物の玄関側の約2/3は開口部を極力抑えていることもポイント。

「大きな建物ですから、閉鎖性と開放性の緩急で豊かな表情を付けました。玄関側の閉じた空間から開放感のあるリビングに入ると、雄大な景色もより強調されます。」

これらの設計コンセプトが室内にいても見て取れるのがリカルドさんの事務所ならでは。

「私たちは建築とインテリアの融合を特に重視しています。今回リビングの天井は素直に建築の屋根形状に

従っている。設計コンセプトがそのまま感じられることが大切だと考えています」とインテリアを手掛けるトッサイさん。トッサイさんは話す。

室内の温熱環境や居心地の演出もインテリアデザインの延長。特にニセコのような寒冷地で快適な温熱環境を確保するのは工夫が必要だ。

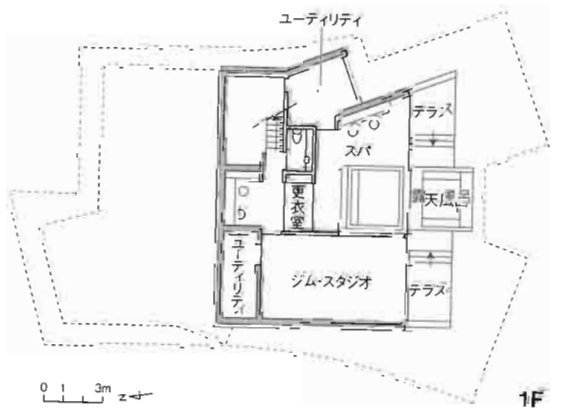
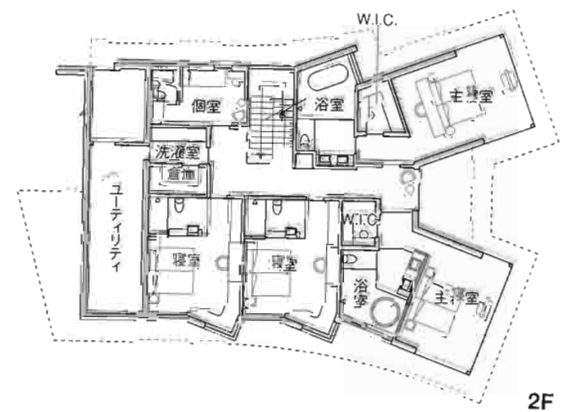
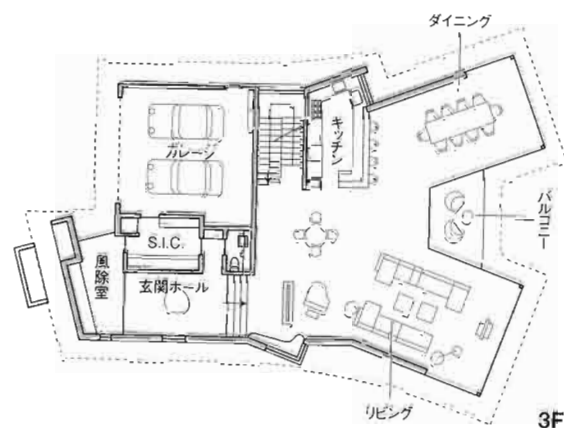
「厳しい環境下で開口部を大きくとるために、窓辺にラジエーターを入れてコールドドラフトを防いだり、魔法瓶のように断熱性を高めたり、シーリングファンで対流を促したりと、テクノロジの力を使って温熱環境とサステナビリティに配慮しています。」

内装は北国のリゾートらしく素朴な素材感ですが、見えないところで最新のテクノロジが支えています。見た目のデザインはもちろん、建物はテクノロジや哲学などさまざまな要素を融合させてこそ。

「建築は総合芸術です」と糸田さんは強調する。

計画から2年以上の時間をかけ、昨年初秋に完成したレジデンス。住み手は待ちに待った別荘にたびたび訪れ、忙しいなかでも家族で北国を満喫している。そして想定したとおり、さっそく友人が宿泊する機会もあったという。

「オンサイトにしたことでゲストを招待しやすくなったと思います。ニセコに長く携わってきた期待するものが、日本における別荘文化の可能性。日本人のライフスタイルや社交の在り方などいろいろなるものがあるチャンステだと思っています」と、リカルドさん、糸田さんは多拠点で自由に渡るライフスタイルに期待する。褒めは単に住み手だけのものではなく、周囲の人たちや地域も含めて活力を与えるものなのかもしれない。



0 1 3m



エリアのシンボル、羊蹄山とニセコアンヌプリを望むロケーション。



羊蹄山とニセコアンヌプリに向かってY字形にせり出した建物の外観。積雪のために出した板張りの軒がデザインのアクセントになっている。

開放感と断熱性を両立させるため、ラジエーターなどテクノロジーは惜しみなく投入。蓄電池の導入などサステナビリティにも配慮している。

サステナビリティにも配慮し、テクノロジーを駆使して快適な温熱環境を実現



羊蹄山に向かって突き出たダイニングルーム。景色の映り込みを楽しむため、テーブルはあえて反射するミラー仕様の天板のものを選んだ。



大きなガラス窓を通して雄大な自然環境と一体化するY字部分。快適な気温になる夏を中心に、間に設けたバルコニーで過ごすのも気持ちいい。



1階にはホテルのようなスパと露天風呂を配置。グランドレベルで自然を感じながら、落ち着いて天然温泉に浸ることができる癒やしの空間。



豪雪地帯の気候を考慮し、スノーブーツやダウンコートなどの離脱を促すエントランスホールを広くとり、大きなオットマンを配置している。



DATA

Hanaridge11

- 設計_リカルド・トッサーニ・アーキテクチャー
- 敷地面積_2075.50㎡
- 延床面積_571.41㎡
 - 1階_99.46㎡
 - 2階_241.28㎡
 - 3階_230.67㎡
- 家族構成_夫婦+子供2人
- 所在地_北海道虻田郡
- 用途地域_指定なし(準都市計画区域内)
- 構造_鉄骨造、RC造
- 構造設計_アルテック
- 工事期間_2021年5月~2022年9月
- 施工_阿部建設
- キッチン製作_クリナップ

MATERIALS

- 外部仕上げ
 - 屋根_寒冷地用ガルバリウム鋼板
 - 外壁_杉板オスモ染色
- 内部仕上げ
 - LDK
 - 床_オーク材 (IOC)
 - 壁・天井_不燃突板パネル (IOC)
 - 寝室
 - 床_オーク材 (IOC)
 - 壁_不燃突板パネル (IOC)、壁紙(旭興)
 - 天井_EP塗装
 - ほか仕上げ材
 - タイル(マラツィ)、石(関ヶ原石材)、
 - カーペット(東リ)

INSTRUMENTS

- 厨房機器
 - ガスコンロ: リンナイ
 - オープン・食洗機: ミーレ
 - 水栓金具: KWC (セラトレーディング)
 - レンジフード: アリアフィーナ
 - 浄水器: 三菱ケミカル・クリンスイ
- 衛生機器
 - バスタブ: イノシ (DMS)
 - 水栓・シャワー水栓: ハンスグローエ
 - 洗面ボウル: セラトレーディング、
 - リラインス

1 大自然に包み込まれるリビングルーム。心身を癒やすリゾートならではの居心地を演出。2 住み手の家族だけでなく、親族やゲストが大勢集える約170㎡のLDK。ボードゲームを楽しめるように、丸テーブルを配置して居場所をつくっている。3 外の景色を主役にするため、キッチンをあえて存在感を消すようなデザインに。4 傾斜地に立つ建物は、最上階の3階部分がエントランス。道路側から見ると平屋のような佇まいとなり、自然環境のなかに溶け込むようにデザインされている。



上・下 景色に開いたY字部分それぞれに主寝室を配置。共にバスルーム、パウダールーム、トイレ、クローゼットを設け、住み手はもちろん、お客さまを招いてゲストルームとしても利用できるように設えている。